

原木にもなる。

スギ 幹が真っすぐに伸びるので建築材の代表格である。植林奨励により町内の山々の至る所に美林を構成している。生命力も強く例えは蔵持山の杉・英彦山の鬼杉、はては屋久島の縄文杉等有名である。

センダン 初夏に淡黄の花をつけ秋に楕円形の白黄色の実が梢に連なる。材には香気がある。

トチノキ 花は五月ごろ大きな円錐花房でつく。材は建築用。

トリモチ 樹皮からトリモチを作る。これで鳥・昆虫を捕る。

ヒノキ 建築材の最優良品。檜の美林が多い犀川町は、これを「町の木」に指定している。アスナロは檜に似ている。

ハンノキ カバノキ科落葉高木。川岸や湿地に自生。樹皮は染料。

ハゼノキ 紅葉は美しい。ハゼの実から木蠟が採れる。

ブナ ブナ科広葉樹林の代表種。低地に自生するものをイヌブナと言う。材は堅いが案外狂いやすく腐りやすい欠点がある。

ホオノキ モクレン科落葉樹。春芽立つころには樹皮が木質と離れやすく、子供が刀を作る遊びにしていた。枯れ落ち葉を踏むと高い音に驚く。

ミズキ 樹液が多いのでこの名がある。材は白く軽いのでコケンに使用される。花期は晩春、枝先に白色の小花を散房花序につける。

ムクノキ ニレ科の大型落葉樹、果実は秋に黒く熟し子供が愛好する。上木井の「椋ノ木」は先年天然記念物として県指定となる。

ムクロジ 種子は円く堅いので追羽根の玉に用いる。果皮はサポニンを多く含んでいるので石鹸の代用になる。

モミ 日本特産である。材は建築材・楽器・船材など用途は広い。幼

木はクリスマスツリーに使われることが多い。

ネムノキ 花は六、七月ごろ薄紅色で絹糸状につく。夜になると葉をたたみ就眠運動をするのでこの名あり。

ナラ いわゆるドンダリの木である。コナラとも言う。用途は家具類やシイタケの原木、優良炭が得られる。

ニッケイ この木の根を掘り出し乾かすと辛味のニッケイができる。本町でもめったに見当たらない。崎山の古屋敷跡にある。

ニレ 材は重く弾性があり割れにくいので板用に、繊維は紙・布を作る原料。

ユズリハ 新芽が伸びてから先年の葉が落ちるので代々を譲るという縁起で正月の飾り物に使われる。

ノグルミ 今はこの大木はまれである。小木はシイタケの櫛木にする。

#### (五) 水辺に見かけるもの

ヤナギ ヤナギ科の植物の総称。水辺に自生し生長が早い。種類にカヤナギ・ネコヤナギ・ハコヤナギ・シダレヤナギなどがある。

エゴノキ 川ギンナンとも言う。花は五、六月ごろ五弁の白い花が下垂して群がって咲く。花後、緑の丸い果実が多く下がる。

#### 三 竹 本 類

モウソウチク 竹類としては最大種、マダケとともに広く自生している。用途は主として竹細工、以前は海苔養殖や漁業に使用されていたが、それも最近使われなくなった。モウソウの名は中国故事二十四孝の

一人孟宗の名にちなんだといわれる。

マダケ モウソウと同じく中国原産。町内における繁殖傾向は孟宗竹よりは少ない。用途は竹梯子・竿・茶杓・茶せん・物差し・団扇・傘の骨その他一般竹細工に用う。

ハチク マダケに似ている。クレタケ、カラタケの別名がある。

ゴサンチク 下部の節間が極端に短くて膨れている。形がおもしろいので杖や釣り竿に喜ばれる。繁茂は多くない。

クロチク 茎の色が黒紫色だからこう呼ばれる。観賞用に庭に植えたり、茶室など趣味的な建築に用いられる。これも分布が少ない。

メダケ 俗にオナゴダケである。シノダケも同種、竹の皮は年を経ても落ちない。分布は山中至る所や川岸で護岸の役目を果たしている。

オダケ 俗にオトコダケである。マダケの小型と考えられる。

クマザサ 高さ三〇センチぐらいの小さい笹、葉が割合に大きく土地により密生している場合が多い。

メゴザサ 茎が小さく高さ三〇〜四〇センチ、曲げて折れない強さがある。かごやめいなどに使われる。最近めったに見当たらない。

#### 四 き の こ 類

シイタケ マツタケとともに日本の代表的食用きのこである。クマガイ・ナラ・シイ・カシなど広葉樹の枯れ幹・切り株に春秋二季発生する。人工栽培も容易で三〇〇年前より行われていた。当町でもかなりの生産高である。

マツタケ 主として赤松林の根元に発生するが最近は少なくなった。

生きた根を必要とするので人工栽培は難しいとされている。

シメジ 秋ごろ低山の雑木林に単立するかあるいは群生する。センボンシメジはこの同種である。また人工栽培のガンタケもこの一種。

アカナバ 秋の野原をかきわけると赤く小さいなばが生えていたが、現在は植林のためそうした野原という環境がほとんど無いので、このきのこを知らない人が多いだろう。

ハツタケ これも今は全く見当たらないし、店頭でも見ることは無い。大方絶滅したのだろう。

アマタケ 毒性はないが美味ではないので一般に食用に供しないようである。欧州ではこれを好んで食べるとか。

ナメコ 秋季にブナの枯れ幹や切り株に群生する。人工栽培物が瓶詰などで売られている。ビタミンBに富みナメコ汁はうまい。エノキダケ、ナメスギダケなどは一般にナメコと総称する。おが屑を材料とした

人工栽培工場が崎山中瀬にあった。

キクラゲ 広葉樹の腐りかけた枯れ木によく群生する。人間の耳のように柔らかさと形まで似ているので「木耳」の字をあてる。乾燥すると収縮し、軟骨質で黒色となる。人工栽培なし。

サルノコシカケ 梅などの樹木の幹に生える半円形腰掛け状で硬質のきのこ。食用になるマイタケや薬用になるメシマコブや観賞用になるマンネンタケなど、いろいろな種類もある。

テングダケ 各地の林に単生かあるいは群生する大型の毒きのこである。ベニテングダケも同種だが、毒性はやや低い。

イッポンシメジ 普通のシメジに似ているが、裏側のヒダが赤くなるので判別できる。柄になる部分もよく裂けるし食用となるかと勘違いをす